

# かんさい回覧板

発行責任者 熊澤 守

編集責任者 教宣部

## 「個人情報漏洩問題」 シリーズその③

### 当該管理者の勤務実態はまさしく悲惨 本人も会社施策の犠牲者である!!

今回は新大阪駅で発生した個人情報漏洩問題の背後要因を考えてみました。当事者である管理者の事象発生までの勤務は

【23日泊まり】 【24日非番】 【25日休み】 【26日公休】 【27日泊まり】  
【28日非番】 【29日休み】(泊まりは9時から翌日9時30分まで)

という勤務実態でした。

通常の間感で言えば何の問題も無い勤務のようですが、皆さんもご承知のように24日と28日は大雨の影響により、新幹線は大幅に乱れ、特に24日は二時間以上の列車遅延が発生する等、駅や乗務員を中心とした運輸・営業職場は利用客の対応に追われ大変な状況でありました。

当然にも当該管理者は23日の泊まりは一睡もせず、24日の非番も夕方まで残って、異常時の残務処理に加えて通常の業務もこなしている事が考えられます。また、28日の非番も同じように列車遅延による対応をはじめ、夕方まで職場に残って業務を強いられていたと思われます。

本来なら非番は早く自宅に帰ってゆっくりと休養を取るのが日頃、会社が点呼等で強調している「各自十分な休養を取って次勤務に支障の無いように」の実践であり、管理者自らが模範を一般社員に示すべきでした。

しかし、その実態はどうだったのでしょうか!?

28日の非番は疲れている身体にムチ打って、なんとJR東海ユニオン新大阪駅分会主催の「夏季輸送完遂ごくろうさん会」に出席しています。

おそらく、科長クラスからの命令で断れず、やむなく参加し、今回の事態が発生した事が考えられます。まさしく、当該管理者も会社の人間性を無視した労務管理の犠牲者であります。

会社は記者会見等で今回の事態の当事者である管理者である本人に対して厳しい対応で臨むことを明言していましたが、職場の噂によると22日に「出勤停止」の発令が出された様です。当初、職場では管理者を含め、最悪の「懲戒解雇」処分の発令も予想されていた中での発令に対し、本人は当然のことですが、職場の同僚も胸をなで下ろしました。しかし、今後もあくまで個人に責任を押しつけて事態の終息をはかろうとする会社の「しっぽ切り」を許さず、会社の当事者責任のさらなる追及を強めていきます。

**個人の責任=懲戒処分での幕引きを許さず、会社は真の原因明らかにせよ!!**